

権力は腐敗する

横井快太（千葉県弁護士会）

「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する。」

今年の日弁連人権大会シンポジウムで、ジャーナリスト岸井成格さんがこのような発言をしました。言い古された格言ですが、真理であると思います。岸井さんは現政権を念頭に発言したようですが、私の頭にはふと日弁連執行部のことが頭に浮かびました。

実際、現政権と日弁連執行部というのは妙に似ているところがあります。自民党は戦後長期間政権の座に就き、2009年に民主党に政権の座を明け渡したものの、2012年には奪還し、その後は低迷する野党を尻目に悠々としています。他方、日弁連は、昔から東京、大阪にそれぞれいくつかある派閥間調整で会長候補者が決まり、2010年に宇都宮候補に敗れるまで、長期にわたり派閥推薦候補が日弁連会長を務めてきました。そして、2012年に派閥推薦候補が会長の座を取り戻してからは、対立候補の弱化、投票率の低迷もあり、会長選挙で圧勝が続いています。そっくりと言っているほど似ていますよね。

現在、全国の弁護士数は37568名ですが、そのうち東京三会（東京、第一東京、第二東京）が46.6%を占め、これに大阪弁護士会を加えると58.1%にも及びます。東京、大阪の票を固めれば、地方の会が束になっても敵いません。東京に居た弁護士から聞いたところによれば、今年の臨時総会の前に、会の副会長など要職に就いている派閥のお偉いさんが弁護士事務所を訪問し、同じ派閥に属する所長弁護士に対し、所属弁護士を取りまとめて委任状を出すように要求してきたのだそうです。そんなことをされれば、所長弁護士は断りにくいでしょうし、所属弁護士もよほどのことがなければ所長の頼みを断れないでしょう。会長選挙は無記名投票ですから、派閥推薦候補に投票するよう呼び掛けられても、対抗馬に入れることはできますが、総会では上記のようにして取得された多数の委任状が幅を利かせ、総会での議論の前から議案の採否が決しているという状況です。法曹人口、法曹養成問題が争点となった今年の臨時総会や、司法試験合格者3000人容認を決めた2000年の臨時総会も、勝負は総会が始まる前に決まっていたのです。このような派閥による支配が連綿と続いてきたのが日弁連で、自公政権以上に派閥サイドの基盤は安泰であるように思えます。

岸井さんの冒頭の発言は、日弁連執行部、日弁連内で絶対的な権力を握る派閥こそ、心して聞くべきでしょう。何しろ、絶対に腐敗するとまで言われているのです。派閥で票を固めれば過半数が容易にとれる状況に奢り、最終的には自分達の意見が通るからといって派閥外の意見を軽視ないし無視してはいませんか。